

菊陽人 りさーち

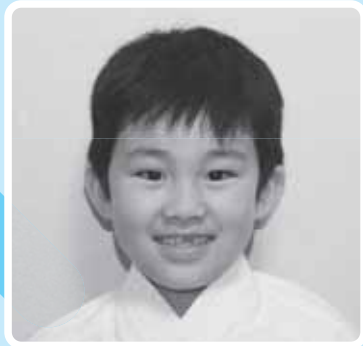


すなか こうき
須中 滉基さん (8歳)
[境の松]

- **趣味** 少林寺拳法
- **将来の夢** サッカー選手
- **自慢** 少林寺拳法で金メダルを取った!
- **今一番やりたいこと** 習字をがんばる!

「菊陽人りさーち」に掲載を希望される人は、はがきに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先(昼間)」を明記のうえ〒869-1192菊陽町役場総合政策課「菊陽人りさーち」係までお送りください。

注) 掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している人に限ります。親子、祖父母と孫など2人1組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらからご連絡させていただきます。



すなか しょうけん
須中 奨健さん (6歳)
[境の松]

- **趣味** 野球
- **将来の夢** 野球選手
- **自慢** 少林寺拳法で金メダルを取りました!
- **今一番やりたいこと** 黒帯を目指してがんばる!

ゆたかな心をはぐくむ 人権のひろば

子どもの目、子どもの声
人権
作文シリーズ
【No.15】

「戦争」「中国残留孤児」といった悲惨な出来事の起こった年月は遠くなりました。しかし、その渦中に生きた人々や家族には今も癒えぬ深い傷を残しました。「人権」が奪われる理不尽さ、「人権」を守る行為の尊さを学ぶ人権教育を菊陽町では進めています。
*作者の学年は前年度の在籍学年となります。

問い合わせ
人権教育・啓発課
☎232-2113

「ごんちゃんのかんぶん」を がくしゅんごん

菊陽北小学校1年 まるばやし ここな

ともだちが、わたしのへびのところにくでをまわしてきたのが、いやだったです。でも、そのときは、口でいえなかったで、いやだったです。ずっとずっと、がまんしていました。ママにもいえなかつたから、かなしかつたです。とかきました。

わたしは、おかあさんにもいえなくて、かえりのかいでいえなくて、ずっと、もやもやしていました。でも、かおにつきにかいて、ともだちにはなしをしました。ともだちもやまってくれたので、うれしかったです。



▲ともだち

「本当の家族とは」

武蔵ヶ丘小学校5年 上村 美智

私は、この一年を通してハンセン病や水俣病、中国残留孤児について勉強してきました。その中でも中国残留孤児について学んで思ったことが一番大きかったです。

初めて、「離れたくない」を読んだ時、自分が住んでいる国が、こんなにひどいことをしているというのを知って、と

ても悲しくなりました。私は、中国残留孤児について調べた中で、中国残留孤児だったつるじさんの話しを聞くことができました。つるじさんは、「血がつながっていないから」といって家族でないのはおかしい」とおっしゃいました。そして、「妻の子どもも私の子ども。もう決して離れたくない。」という言葉は心に強く残っています。また、家族みんなお互いのことを信じ合い、助け合っていました。わたしは、その姿にとても感動しました。



▲信じ合い、愛し合い

この学習を通して、「本当の家族」とは、お互いに信じ合い、愛し合い助け合っていれば血のつながりなんて関係ないんだと思ひ、私の家族に対する気持ちがよくなりました。

クラスのめあてをふり返って

菊陽南小学校6年 朝比 麻央

私は、クラスのめあての「悪口をなくしていく」ことをがんばりました。前はイヤなことがあっても、「いや」といえないでいました。でも、先生から「悪口を言うことは、自分が弱いことを示している。」と言われた言葉が心に響きました。今では、悪口を言われたら「自分が弱いことを示しているのと一緒に！」と言え

るようになりました。修学旅行のフィールドワークの時の椎名さんからも「人を愛することは、まずクラスの人たちから」と言われたので、その言葉を思い出すときは、きちんとできるようにしました。でも、忘れていたときは、「意味不明」とか「ウザイ」とか言ってしまつて、後悔します。「みなみっこ集会」のテーマとして「どうして悪口を言ってしまうの？」を話し合つてみんなの気持ちもわかりました。



▲めあてに向かつて

「尊敬される」クラスは、もう少しでした。一年生とかと一緒に遊んだり、いろんな学年とサッカーをしたりすることはできたけど、運動会の練習の時に、ふざけて迷惑をかけたこともありました。縦割りそつじの時にも、話してばかりしていてさぼつてしまつたことがあったからです。中学校の先生に「そつじをきちんとできるようになって中学校にきてほしい」と言われたので、後少しの小学校生活でそつじなど真剣に取り組みたいです。

きくよう文芸

菊陽句会報

路線バス陽炎だけを残し行き	坂本百合子	村人の視線集めて鯉幟	川口 豊子
菜の花やたのしみしと風を呼ぶ	田中 郁子	小草も名持つと師の声春の土手	井上久美子
口欠けし縄文土器や竹の秋	村田 正三	あさり貝汐吐き海が恋しいと	宮川ユキエ
木瓜咲くや友は笑顔で退院す	井 子文	朝剪りし供華の芍薬紅ほのと	日高 妙子
庭いじり心委ねし薫風に	原野レイ子	齢なれなかなか取れぬ春炬燵	曾我 育代
鼻ぐり橋春の星座を飽かず見る	西村ひとえ	阿蘇風車ゆつくり歩く麦の秋	曾我トモ子
つつじ野やうすくれないの風の中	力 幸子	子雲雀の二羽かくれんば麦畑	紫藤 祥子
樹々の陰ひそと咲きたる柿の花	寺尾千代子	童謡に在りし日もあり風薫る	村上 朋子
柏餅母の口ぐせはんぶんこ	高橋 孝子	酔葉かみふるさとの川友の顔	合志 重子
夏はじめ稽古の竹刀握りしめ	佐藤 航	あかあかと阿蘇に春呼ぶ神の舞	野口 令史
元気な芽出したよ枯木と思つた	佐藤 健	折鶴の一片の心春の夢	松橋 強
眼は空へトツトツ歩すは雲雀の子	佐藤 節	能仕手に風のさやぎや鼓草	佐藤 澄世
帰国子の筒飯に舌つづみ	吉野 早苗	殊の外眼に沁む葉筆の秋	三島 一路

短歌会

時かけて開きし花は大輪の真白に輝く朝日を受けて
麗らかな春の緑に休日を楽しむ人ら子どもを連れて
故郷を離れてひととせ経ちにしか子の植えし花は黄に咲き満ちぬ
麦踏みや麦刈りせし日を話しつつ色付く麦の畑過ぎ行く
託麻山並ぶ三山野の末の菊陽までも藤咲き薫る
在りし日の夫と尋ねし氷川丸白き姿の海に映えいし

今村 貞子
岡本まさえ
菊川あさみ
下田 久子
皆島キノ
森 敦子